



## 2017年度 精神障がい者家族間の支援者 ピアサポートの養成研修



平成三十年一月三十日午後一時より春日クローバープラザにて、ピアサポートの養成及び推進の研修会を開催しました。この研修は、日本財団様より費用助成を頂き実施致しました。

今回の講演は2テーマとし、まず初めに精神神経医学に二十五年以上も関わり、統合失調症にお詳しい久留米大学医学部 内野先生に「精神障がいを持つ人のリカバリー」と題してお話しして頂きました。その中で「精神障がいを持つ人で、結婚や子育て、仕事をしている人はもっとも珍しくない」「精神障がいを持つ人たちが元気になる、社会と関わって行く時に大事になる考え方がだんだん広まってきた」。リカバリーとは、症状だけに焦点を当てるのではなく、当事者の主体性や希望を中心に据えて精神障がいと向き合っていくこと、などが語られました。

参加者からの感想の中で、特にリカバリーゴールの設定については、支援で大切なストレッチング視点で再認識できた。当事者の自己実現を可能にして行ける自信や力を頂いた。個別支援計画を作成する中でリカバリーの考えを元にして、当事者の皆さんのどんな大きな目標でも大事にしていきたいと思う、などの感想がありました。

次に、福精連の重要課題と位置づけする「医療費助成」について精神障がい者の全科医療費ゼロを実現された、奈良県精神障害者家族会連合会会長奥田和男氏に「奈良県の医療費助成・実現運動の報告」と題してお話しを頂きました。

奈良県では昨年4月1日に、すべての市町村で精神障がい者2級までの全科医療費助成が実現しています。なぜ、奈良で2級までの適用が実現できたのか？

①運動の積み重ね ②家族会が「何とかしたい」と腹をくくり、当事者と支援者の皆さんに運動を呼びかけた ③人々それぞれの持ち場で動いてくれる人が出て来てくれた ④名古屋市をはじめとし近隣の愛知県内で適用が実現した ⑤運動を通じて当事者の思いが伝わった参加者からの感想では、社会的弱者を支えようとする「思い」と草の根運動的な活動から始まった活動内容や方法が苦労話を伺うことが出来て大変良かった。精神障がい者の実態を一つ一つ切実に訴えて行ったことが実を結んだお話しに西鉄の交通運賃割引実現と同様、思いは必ず届くとの信念は重要だと思ふ。医療費ゼロが実現後、奈良県連には当事者の方から問い合わせ、福祉医療の申請手続きや会報の購読申込みが増えたことは、リアルではあるが嬉しいことに違いない。

お二人の講演の後、参加者が5グループに分かれ、電話や面接での家族相談について教材として「家族相談ハンドブック、相談事例」を活用しながら、熱心な討議が行われ、5グループの代表より討議の報告を行って頂きました。家族相談電話の担当の方や家族会の方の生の声を聞けて有意義でした。利用者（当事者）さんと接する際に「ご家族のことについても触れていきたいと思う。普段聞けない話が聞けて良かった。などの感想を頂きました。



## 第4回家族職員研修会（生活支援者スキルアップ） 講演テーマ「事業所職員に求められるもの」



（公社）福精連 事業所部会 / そよかせのまち 田中 隼平  
二月二十三日（金）十四時から、平成二十九年第四回福精連主催の家族・職員研修会を開催し、家族・職員合わせて四十八名が参加されました。

久留米市南部障害者基幹相談支援センター長・松下航様、障害者地域生活支援センター「のぞの杜」ピアスタッフの原口さんと齋藤さんをお招きして、今回のテーマである「事業所職員に求められるもの」について、それぞれ経験されてきたことを基に講演していただきました。

利用者に関わりの中で感じたこと、原口さんと齋藤さんは、自身も病気の経験をされた時に感じた支援者の発言に対する疑問、ピアスタッフとしての葛藤など、三名の方々の様々な視点でのお話しがありました。三名の方共通に支援者として求められるものとして「一人の人として向き合う」ことを挙げられていました。支援者主導による「支援者のための支援」になっていないか、人として向き合いながら支援を行っているのかという問いかけは、支援者として様々な気付きがあるものだったのではないかと思います。

私自身も、一人の人として、仲間（ピア）として関わりを大切にしていきたいと改めて感じる事ができた研修会になりました。

以下に参加者の感想文の一部をご紹介します。



・同じ支援者として、年の差は関係なく感じる。大切な事は同じで、やりたい事、思いも同じなんだと思いました。大変、勉強になりました。

・利用されている方との関わり方、悩むことが多いのですが、今回の講演を聞いて、視線を変えらるることで、考えさせられました。

・ピアとSTの違い。お互いが学びあっているという言葉に納得しました。

・ピアスタッフの方の話はすごく分かり易かったです。

## 作業所・事業所紹介



### 就労継続支援事業B型事業所

#### なおみの会共同作業所

施設長 廣津 輝男



当作業所は、直方市と宮若市の2か所で、特定非営利活動法人なおみの会が、「みんな自立を目指し仲良く自主的に」を活動方針として、事業所の運営をしています。

今回は、直方市感田にあります「なおみの会第一作業所」の紹介をさせていただきます。

作業所では朝のミーティングで、その日の利用者の希望や体調を考えて、担当作業をしていただきます。おもな作業内容は、クッキーやケーキなどの製造。糸から織りあげる「さをり織り」の製品作成、小物手芸品の作成。EM菌と米ぬかを使ってほかしの製造。資源リサイクル活動。菓子を仕入れて、作業所の商品と一緒に委託販売先（市役所の売店やJA販売所など）に、支援員と納品も行っています。

また、イベントや他の事業所での販売活動にも参加しています。



### 社会福祉法人 福岡あけぼの会

#### グループホームはーとふる

石山 真紀子



はーとふるは、その名の通り家庭的な心温まるのんびりとした雰囲気グループホームです。

篠栗駅から歩いて少しの、また風光明媚ななほりした環境にあります。

冬は、山々のきれいな雪景色。夏は、すぐ近くの川に蛍が毎年やってきます。ただ、スーパやコンビニが駅の近くにしかないのが…ではありますが苦笑。利用者さんもスタッフも無駄遣いしなくてすんでいます。

週6日の食事もスタッフによる手作りなので、時々食事作りが苦手なスタッフが私です。汗失敗しても温かく食べてくれます。

自立した生活を意識しつつも心温まる、はーとふるなグループホームを利用者さん・スタッフみんなでめざしていきたいです。



## アンケート調査への協力をお願いします。

《交通利用並びに医療費に関する2種類》

- ① 交通利用アンケート(クリーム色)については全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)九州ブロックの8県連が同時に実施するものです。
- ② 医療費に関するアンケート(白色)については、福精連独自に実施するものです。

それぞれのアンケート集計結果をもとに、平成三十年度関係機関への要望書に反映します。

・アンケート用紙の配付(三月下旬)

・ 実施、回収(四月～五月末日)

\*アンケート用紙は、当会報第92号郵送時と同梱しています。

\*記入頂いた用紙は、福精連事務局へ 〒811-0004

福岡市博多区吉塚本町三十五〇

福岡県吉塚合同庁舎6階

(公社) 福岡県精神保健福祉会連合会

(旧) 福岡県精神障害者福祉会連合会

TEL 092-262-0560 FAX 092-262-0561

メール info@fukuseiren.com

## 福精連会報・第93号《予告》

平成三十年七月一日発行予定

①タイトルは「OSK福精連」になります。

②OSKとは、九州障害者定期刊行物協会のこと

③家族会の配付部数を、会員数分用意致します。

④郵送方法を「身障低料第二種郵便物扱い」にさせていただきます。